



平成22年3月期 第2四半期 決算説明資料

平成 21年 11月 27日

トーイン株式会社

JASDAQ

証券コード:7923

平成22年3月期 第2四半期 決算概要

注意

- ① 本資料に記載の売上高の金額には、消費税等は含まれておりません。
- ② 本資料に記載の金額は、百万円未満の端数を切捨てて表示しております。
- ③ 本資料に記載の前期比、構成比等の数値は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

総括

当第2四半期累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)の業績については、包装資材事業は、消費者心理の冷え込みに伴う消費動向の偏りにより、食品分野および医薬品分野は堅調に推移しているものの、化粧品分野および雑貨その他分野が低迷し、特に化粧品分野の樹脂パッケージの受注が大幅に落ち込んだことにより、売上高は4,053百万円(前年同期比7.6%減)となりました。

精密塗工事業は、昨年秋以降におけるエレクトロニクス分野の大手需要先の受注減少により大幅に落ち込んだ受注状況に持ち直しの動きが続いているものの、売上高は459百万円(前年同期比51.9%減)となりました。

その他事業は、野田事業所の受託包装と販促品の商品販売が低迷していることなどにより、売上高は340百万円(前年同期比12.3%減)となりました。

また、当社は、本年6月に執行役員制度を導入して経営の重要な意思決定の迅速化と経営効率の向上を図るなど経営改革を推進するとともに、営業・製造・管理面において、企画提案型の積極的な営業展開、生産効率・品質の向上、在庫管理システムをはじめとする生産管理の効率化・合理化の推進および固定費の削減などの各種の施策を遂行・徹底し、収益基盤の強化に取り組んでまいりました。これらにより、前年第4四半期会計期間から当年第1四半期会計期間にかけて大幅に落ち込んだ収益について、売上面はまだ低迷しているものの、利益面では当第2四半期会計期間において営業利益が黒字に転換するなど徐々に改善が図られてまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高4,853百万円(前年同期比15.3%減)、営業利益42百万円(前年同期比47.9%減)、経常利益33百万円(前年同期比44.4%減)、四半期純利益0百万円(前年同期比99.8%減)となりました。

<当期のトピックス>

平成21年4月 代表取締役を2名体制にする。

代表取締役会長 兼 最高経営責任者	山	科	統
代表取締役社長 兼 最高執行責任者	春	公	明

(目的) 経営環境の変化に迅速に対応するとともに経営体制の一層の強化を図るため。

平成21年6月 執行役員制度を導入する。

(目的) 取締役会における経営の重要な意思決定機能・業務執行の監督機能と執行役員による業務を中心とした業務執行機能とを明確に分離・区分してそれぞれの機能を強化するとともに、意思決定の迅速化及び経営効率の向上を図り、経営環境の急激な変化及び経営の重要課題に迅速かつ的確に対応するため。

※平成21年6月26日開催の第61期株主総会および取締役会の決議をもって取締役およびは執行役員は以下の体制となりました。

代表取締役会長 兼 最高経営責任者	山	科	統
代表取締役社長 兼 最高執行責任者	春	公	明
常務取締役執行役員	橋	本	善
常務取締役執行役員	今	井	勝
常務取締役執行役員	甫	坂	健
常務取締役執行役員	木	崎	耕
執行役員	森		雄
執行役員	埴	淵	正
執行役員	市	倉	由
執行役員	山	科	裕

平成22年3月期 第2四半期損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (H21/4~H21/9)		前年同期 (H20/4~H20/9)		増減	備考
		%		%		
売上高	4,853	100.0	5,728	100.0	△875	
売上原価	4,090	84.3	4,911	85.7	△820	
売上総利益	762	15.7	817	14.3	△55	
販売費及び 一般管理費	719	14.8	735	12.8	△15	
営業利益	42	0.9	81	1.4	△39	
営業外収益	23	0.5	19	0.3	3	
営業外費用	32	0.7	41	0.7	△8	
経常利益	33	0.7	60	1.1	△26	
特別利益	5	0.1	66	1.2	△61	
特別損失	3	0.1	12	0.2	△8	
四半期純利益	0	0.0	49	0.9	△49	

平成22年3月期 第2四半期貸借対照表

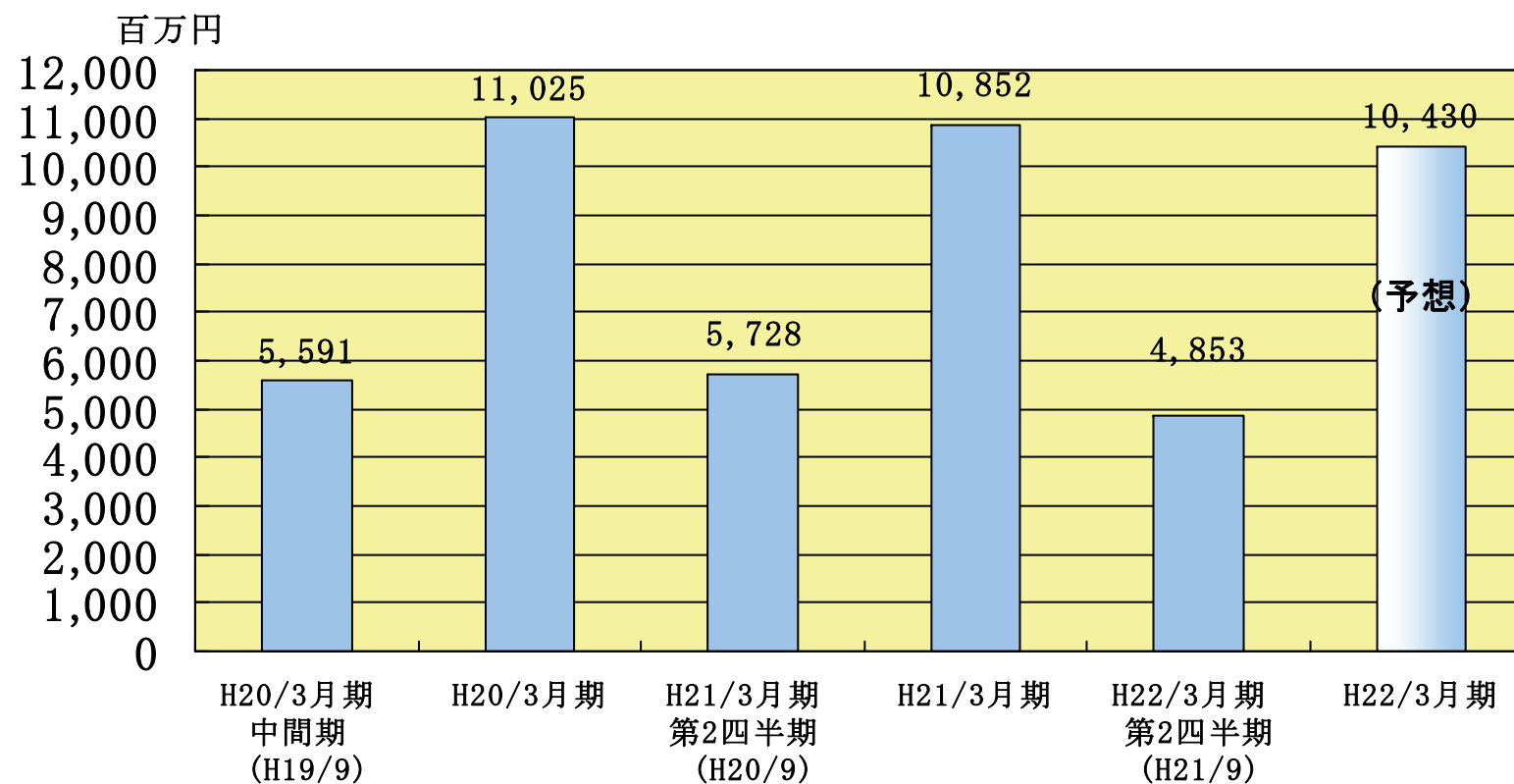
	当第2四半期末 (H21/9)		前期末 (H21/3)		増 減	備 考
		%		%		
流動資産	6,623	44.9	6,686	45.3	△ 62	
固定資産	8,134	55.1	8,066	54.7	68	
有形固定資産	6,359	43.1	6,397	43.4	△ 37	
無形固定資産	86	0.6	85	0.6	1	
投資その他の資産	1,688	11.4	1,583	10.7	104	投資有価証券の含み益の増加
《資産合計》	14,758	100.0	14,752	100.0	6	
流動負債	4,070	27.6	3,892	26.4	178	設備支払手形の増加
固定負債	2,025	13.7	2,239	15.2	△ 214	長期借入金の減少
《負債合計》	6,095	41.3	6,132	41.6	△ 36	
株主資本	8,653	58.6	8,695	58.9	△ 41	
資本金	2,244	15.2	2,244	15.2	—	
資本剰余金	2,901	19.7	2,901	19.7	—	
利益剰余金	3,963	26.9	4,005	27.2	△ 41	配当金の支払
自己株式	△ 456	△ 3.1	△ 456	△ 3.1	△ 0	
評価・換算差額等	8	0.1	△ 75	△ 0.5	84	
《純資産合計》	8,662	58.7	8,620	58.4	42	
《負債 純資産合計》	14,758	100.0	14,752	100.0	6	

平成22年3月期 第2四半期 キャッシュ・フロー計算書

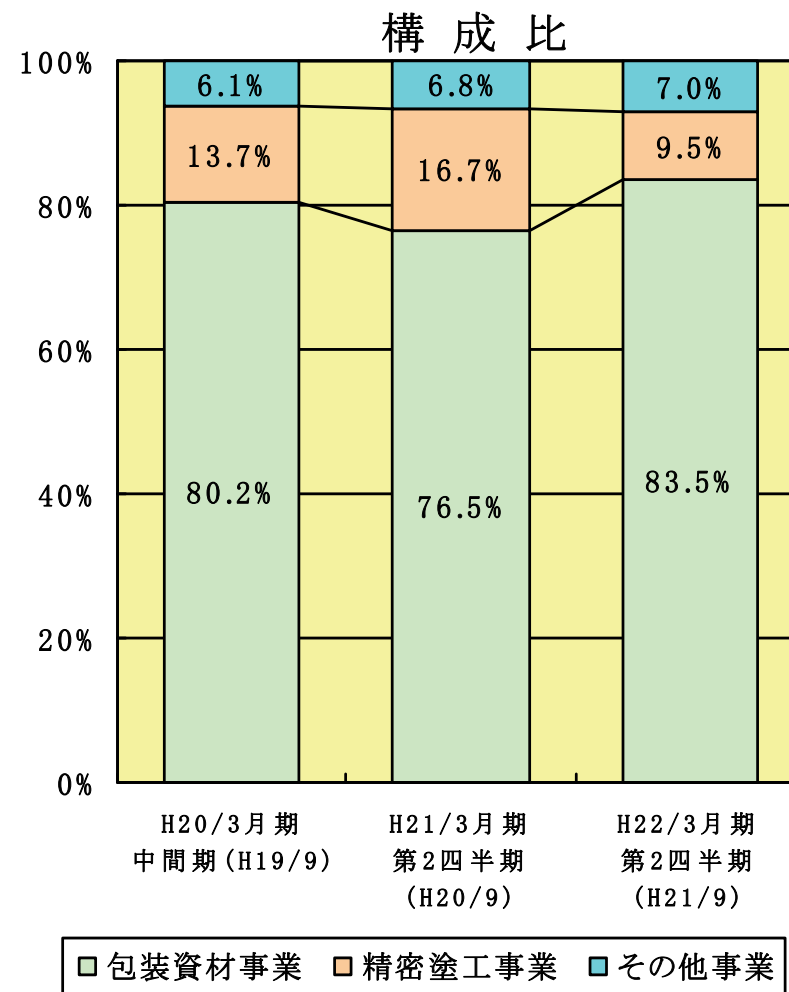
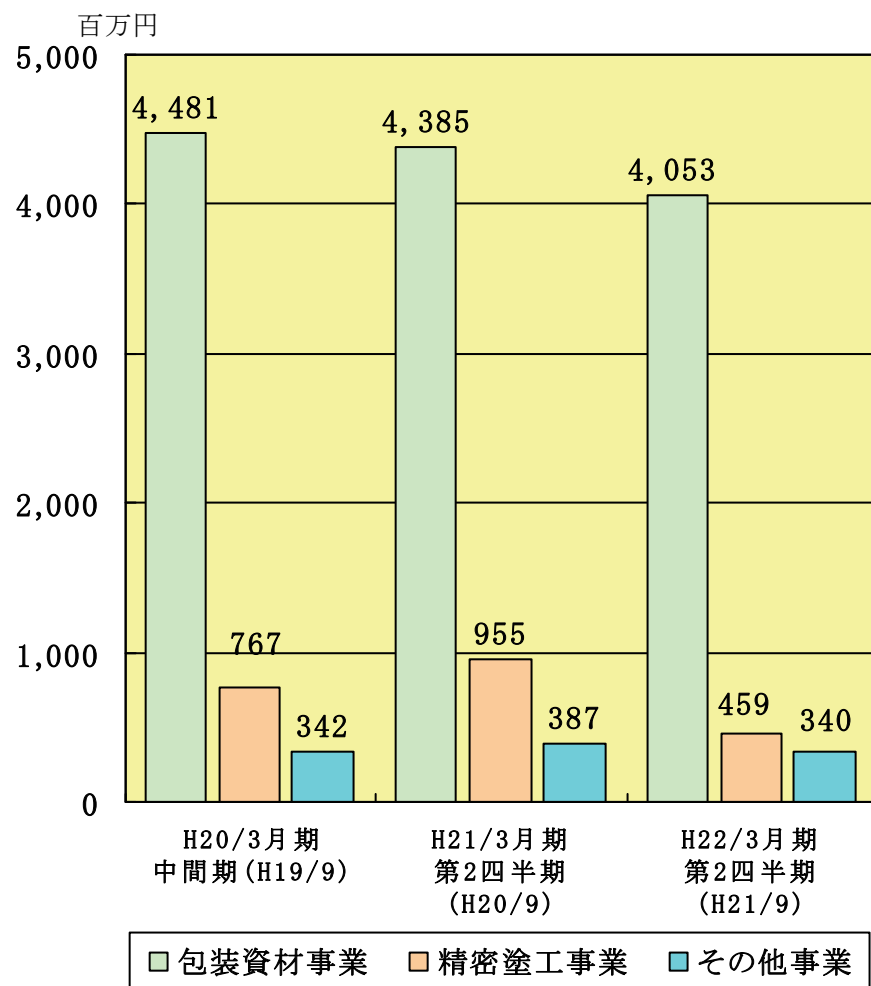
(単位:百万円)

	当第2四半期 (H21/4~H21/9)	前年同期 (H20/4~H20/9)	当第2四半期の特記
営業活動による キャッシュ・フロー	431	290	減価償却費 369百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△222	△282	有形固定資産の取得による 支出 210百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△303	△308	長期借入金の返済による 支出 245百万円
現金及び現金同等物 の増減額	△93	△301	
現金及び現金同等物 の期首残高	2,448	2,271	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	2,354	1,969	

売上高の推移



事業別 売上高

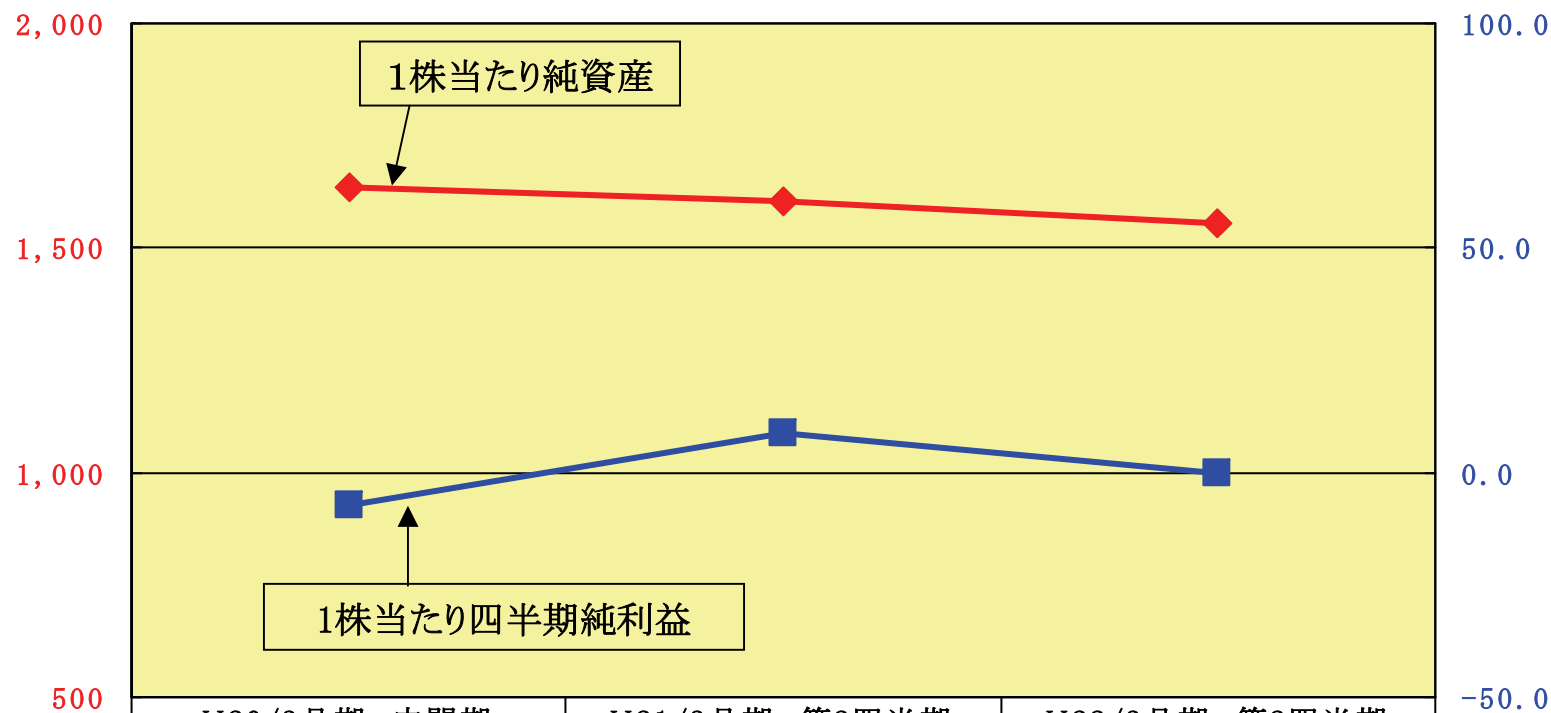


經營指標

経営指標 I

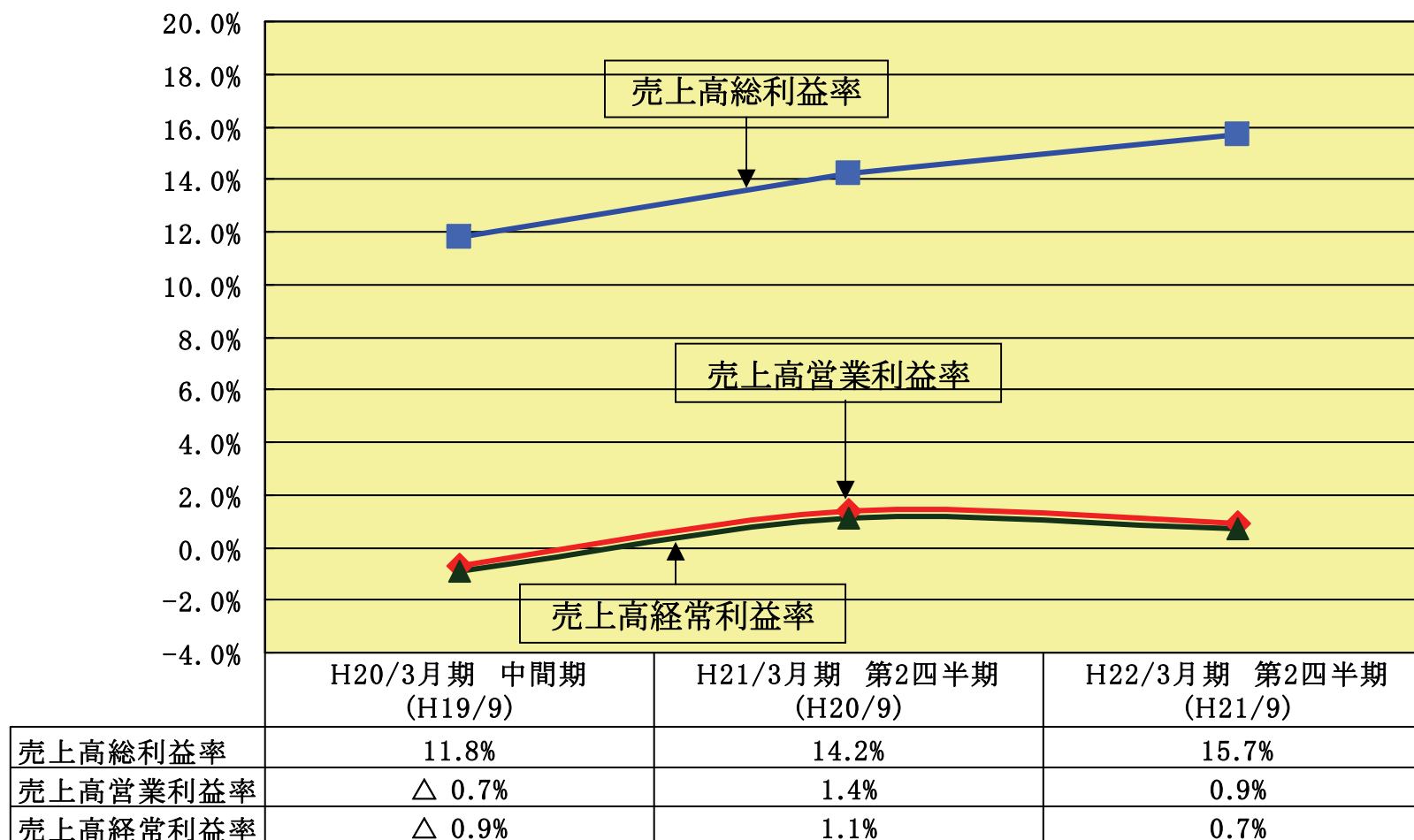
1株当たり純資産額(円)

1株当たり四半期
純利益額(円)

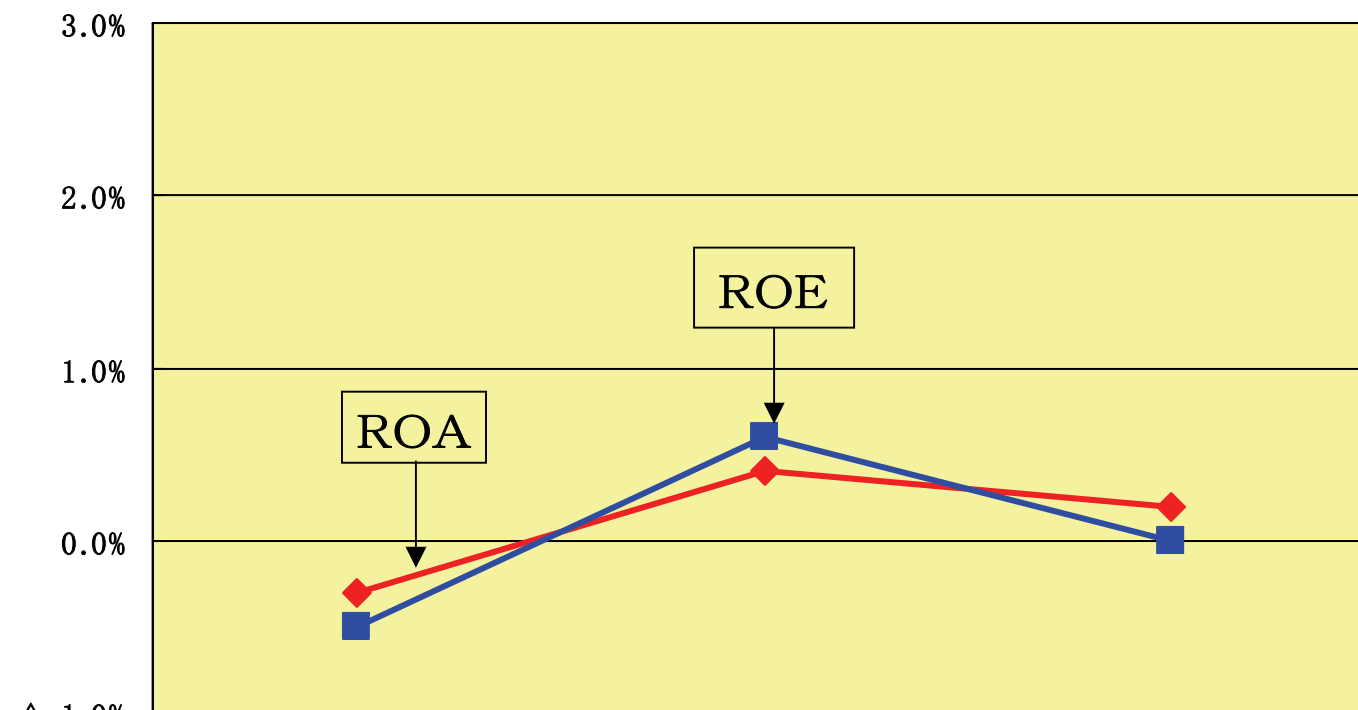


	H20/3月期 中間期 (H19/9)	H21/3月期 第2四半期 (H20/9)	H22/3月期 第2四半期 (H21/9)
1株当たり純資産	1,634.79	1,604.70	1,554.21
1株当たり四半期純利益	△ 7.47	8.85	0.01

経営指標Ⅱ



経営指標Ⅲ



	H20/3月期 中間期 (H19/9)	H21/3月期 第2四半期 (H20/9)	H22/3月期 第2四半期 (H21/9)
ROA(総資産経常利益率)	△ 0.3%	0.4%	0.2%
ROE(自己資本四半期純利益率)	△ 0.5%	0.6%	0.0%

平成22年3月期 業績予想

平成22年3月期の業績予想について

今後の見通しについては、わが国経済は、在庫調整の進展および各国の景気刺激策の効果等によるアジア向けを中心とする輸出の増加傾向から、当面は企業活動の持ち直しが期待されるものの、海外経済の下振れ懸念、国際金融・資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクがあり、引き続き、先行き不透明な経済状況が続くことが予想されます。包装資材業界においては、雇用・所得環境の厳しさが続く中、消費者の生活防衛意識や節約志向・低価格志向は一層進み、引き続き厳しい事業環境が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社は、低迷する売上について、包装資材事業は消費動向の偏りによる客先別・分野別の売上動向を把握し、既存客先の受注の維持・拡大を図るとともに、新規分野・新規客先の開拓に積極的に取り組んでまいります。精密塗工事業は受注状況に持ち直しの動きが続いている中、環境エネルギー分野などの新規分野・新規客先の開拓および包装資材事業の既存客先との関連で新たな需要の喚起・開拓などに注力してまいります。また利益面については、生産効率および品質の向上による製造コストの引下げ、在庫管理システムの活用拡大等による生産管理の効率化・合理化の推進および固定費の削減などの諸施策を遂行し、収益基盤の一層の強化に取り組んでまいります。

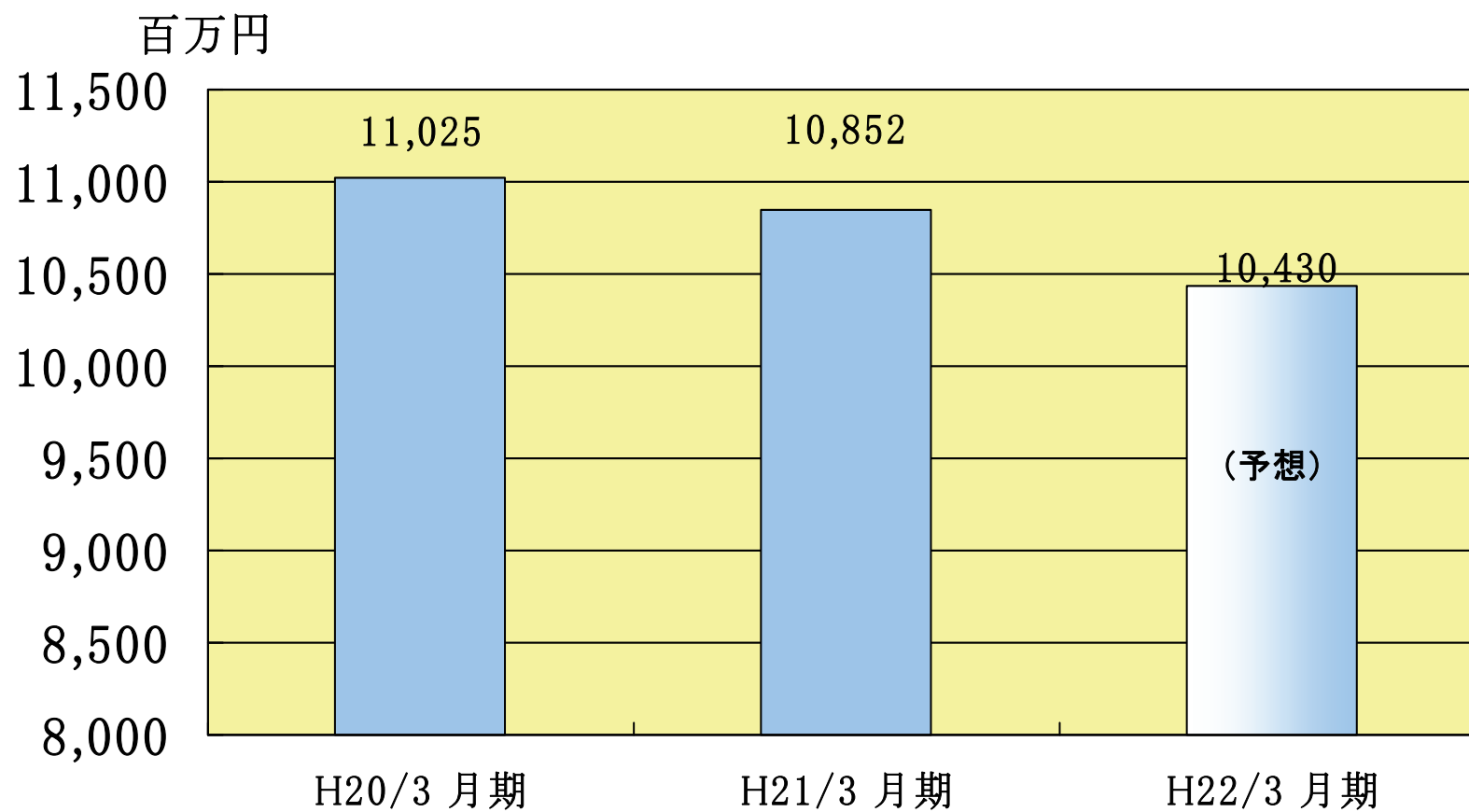
平成22年3月期の業績予想

(単位:百万円)

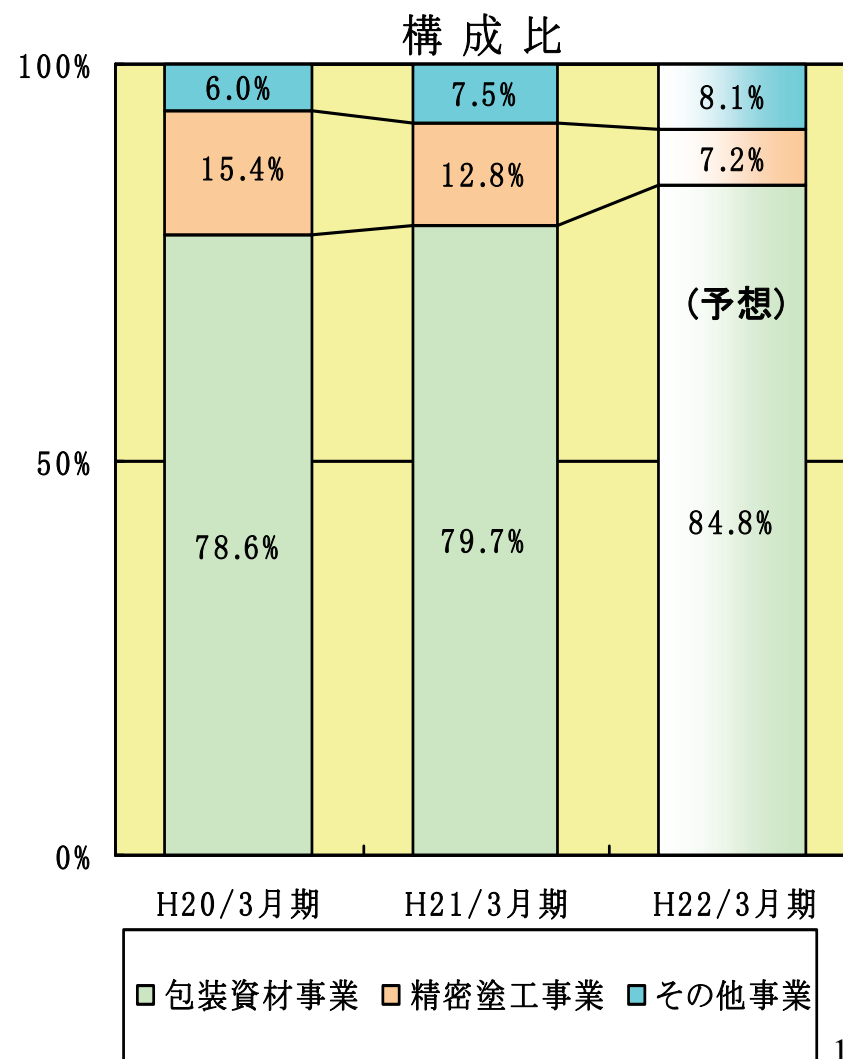
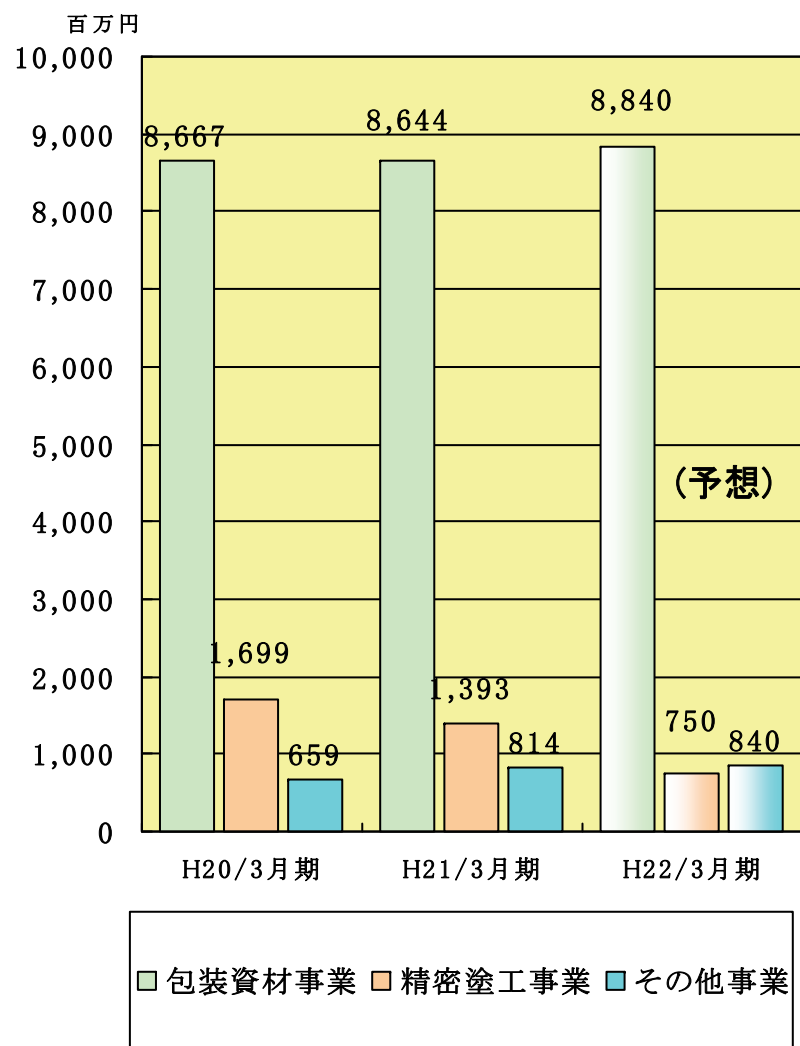
	当第2四半期(実績)		通期(予想)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率
売上高	4,853	100.0%	10,430	100.0%
営業利益	42	0.9	230	2.2
経常利益	33	0.7	200	1.9
当期純利益	0	0.0	100	1.0

(注)平成22年3月期通期の業績予想に関しては、平成21年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

通期売上高



事業別 売上高



経営の基本方針

当社は、経営理念に基づき、お客様の立場にたって、包装資材事業を中心とした製品に関する様々なニーズにお応えすることが豊かな社会への貢献につながるものと考えます。

またグローバルな企業競争下の社会環境において、長年の知識と技術力を基礎に技術革新に励み“よきモノづくり”を極め、きめ細かいサービスによりお客様のご要望にお応えすることを目指しております。

<経営理念>

- | | |
|----------|----------------|
| ・お客様に学べ | それが社会への貢献につながる |
| ・技術革新に挑め | それが会社の発展につながる |
| ・夢と利益を追え | それが皆の幸福につながる |

企業行動規範

- ① 私たちは、社会への奉仕と貢献、社会的信用を重視し、本業による適正な利益を追求します。
- ② 私たちは、未来の真に豊かな社会の実現のため、環境破壊と汚染の防止に積極的に取り組みます。
- ③ 私たちは、社会との良好な連帯に努めるとともに、反社会的な勢力および団体等と一切関係を持ちません。
- ④ 私たちは、法律・規則を遵守し、さらに社会的・道義的責任を自覚し、節度と良識ある行動に努めます。
- ⑤ 私たちは、重要な会社情報を最善の注意をもって取扱い、適時に開示します。また、インサイダー情報を不正に利用した株式の売買等を行ないません。
- ⑥ 私たちは、お客さまに感謝の念と誠意をもって接し、お客さまの満足と信頼を大切にします。
- ⑦ 私たちは、時代の変化・要求をとらえた新技術、新製品を開発し、より良い製品とより良いサービスを社会へ提供して行きます。
- ⑧ 私たちは、礼節を重んじ、相手の立場を尊重し、より高い人格の形成と差別のない明るい公平な社会の実現に努めます。
- ⑨ 私たちは、「安全と健康は全てのものに優先する」を基本とし、より安全で快適な職場をつくります。
- ⑩ 私たちは、自らの専門技術と知識を高め、自由活発な意見交換を通じて、創造性豊かな、活力ある企業集団にします。

トーン株式会社



《事業所》

●本店・柏工場

〒277-0804 千葉県柏市新十余二16-1

TEL:04-7131-2111(代) FAX:04-7132-6937

●東京本社

〒136-0071 東京都江東区亀戸1-4-2

TEL:03-5627-9111(代) FAX:03-3638-1134

●野田事業所

〒270-0237 千葉県野田市中里231-5

TEL:04-7120-8805(代) FAX:04-7120-8017

●大阪営業所

〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-1-7

TEL: 06-6136-4351(代) FAX: 06-6136-4363

《子会社》

●TOIN(THAILAND)CO., LTD. (トーンタイランド)

タイ国バンコク

《関連会社》

●Printing Solution Co., Ltd. (PSC社)

タイ国バンコク

○ホームページURL <http://www.toin.co.jp>

○本資料に関するお問合せ

経営企画部 TEL:03-5627-9111 FAX:03-3638-1131